

保育科 履修系統図

「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

【教育課程の編成、教育内容】

- 保育科は、幼稚園教諭2種免許状および保育士資格の取得を基本的な考えとします。「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」を中心に、保育の本質を捉え、仏教保育の理念に基づいた子ども観や保育観を基礎とした専門的な実践力を身につけることができるように、系統的に分類した6つの科目群について、基礎・基本から応用・発展へ、また、確実な知識・技術の修得から課題解決力を培う探求型の学修態度の育成へと、確実に保育実践力を自ら身につけていくことができるように、各専門科目を年次配置します。
- 保育の本質や意義、保育制度や歴史、保育者の役割に関する科目群には、「保育者論」「保育原理」「教育原理(制度的事項等を含む)」「社会福祉」などの科目を配置。
 - 心理学に基づいた子どもの発達や家庭支援の基礎理論に関する科目群には、「保育の心理学Ⅰ」「子どもの保健」「子ども家庭支援論」「在宅保育」などの科目を配置。
 - 保育内容(領域別の理論と実践)・方法に関する科目群には、「幼児教育課程総論」「保育内容総論」「子育て支援」などの科目を配置。
 - 保育に必要な表現技術・基礎技能を身につけるための科目群には、「音楽Ⅰ～Ⅳ」「図画工作Ⅰ・Ⅱ」「小児体育Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置。
 - 学外実習での課題解決に関する科目群には、事前・事後指導を含む学外実習などの科目を配置。
 - 仏教精神を核に、慈愛に満ち、現代の保育課題に対応できる保育者を育てるための本学独自の科目群には、「仏教保育論」「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」「保育探究演習」などの科目を配置。

【教育方法】

- 具体的な保育事例やICTの活用を通して、保育への興味や関心を高め、専門的な知識の理解力や課題把握・解決力が身につくような授業を実施します。
 - 基礎知識や理論に関する科目については、聞く力・書く力を大切に、授業規律の徹底を図ります。
 - 理論や技術の応用や発展を目指す科目については、グループワーク等を通して協調性を育みながら、話す力や問題解決能力が身につくような授業を実施します。
- 個人差の大きいピアノ演奏能力については、大学入学前から「ピアノ初心者向け基礎講座」を開催します。入学後も個人指導を行います。
- 異学年交流や地域の保育現場と連携したアクティブ・ラーニングによる教育を実施します。保育実践力を身につける意欲を高め、慈愛に満ちた保育者としての態度を培うことができるよう、保育科全教員がティームティーチング制で指導にあたり、学生の学びを推進します。

【学修成果の評価方法】

- 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 上記に示した教育課程における学修成果の評価については、各科目の特性に合わせて、筆記試験や実技試験、課題の提出やレポート作成による多様な評価方法により、基礎的な聞く力や書く力等の学修態度も含めて評価します。
- 慈愛に満ちた保育者としての資質・態度を身につけるために、授業への出席回数をもとより、グループワークや発表などへの参加度、グループで作成するワークシートも評価のひとつとして取り入れます。
- ピアノ技術力については、個人差が大きいため、ルーブリックによる評価を行います。
- 保育科の核となる「保育実践演習Ⅰ～Ⅳ」では、毎回の授業で作成するワークシートと各セメスターの最後にまとめるレポートによって構成される学修ポートフォリオによる評価をセメスターごとに行います。

身につけるべき能力	1年次(1セメスター)	1年次(2セメスター)	2年次(3セメスター)	2年次(4セメスター)
<p>① 慈愛に満ちた保育者として保育現場で活躍できる人格形成</p> <p>仏教保育の理念と方法を体得し、受容性と共感性に富む慈愛に満ちた保育の実践者として、子どもの成長と共に自らの人格形成を目指すことができる。</p>	<p>仏教保育論</p>	<p>保育者論</p>	<p>保育実践演習Ⅲ</p>	<p>保育実践演習Ⅳ</p>
<p>② 保育者として幅広い教養と専門的・実践的な知識および表現・技術の獲得</p> <p>保育や子どもとそれらを取り巻く社会状況に関心をもち、保育技術の向上や新たな知識の獲得に意欲的に取り組み、保育や幼児教育、福祉、また子どもや子育てに関する知識を理解し、子どものあそび・表現活動にかかわる基礎的な技術力を身につけるとともに保育現場における適切な表現・援助の方法を体得する。</p>	<p>保育原理</p> <p>幼児教育課程総論</p> <p>社会福祉</p> <p>保育の心理学Ⅰ</p> <p>保育内容・環境</p> <p>音楽Ⅰ(器楽)</p> <p>音楽Ⅲ(声楽・鑑賞)</p> <p>小児体育Ⅰ</p> <p>図画工作Ⅰ</p> <p>教育実習指導Ⅰ(幼稚園)</p>	<p>教育原理(制度的事項等を含む)</p> <p>子ども家庭福祉</p> <p>子どもの保健</p> <p>乳児保育Ⅰ</p> <p>保育内容・言葉</p> <p>幼児と人間関係</p> <p>幼児と表現</p> <p>音楽Ⅱ(器楽)</p> <p>音楽Ⅳ(声楽・鑑賞)</p> <p>小児体育Ⅱ</p> <p>図画工作Ⅱ</p> <p>教育実習Ⅰ(幼稚園)</p> <p>保育実習指導Ⅰ(保育所・施設)</p> <p>保育実習Ⅰ(保育所)</p> <p>保育実習Ⅰ(施設)</p>	<p>特別支援教育</p> <p>子ども理解の理論と方法(教育相談を含む)</p> <p>社会的養護Ⅰ</p> <p>子どもの食と栄養</p> <p>子どもの健康と安全</p> <p>乳児保育Ⅱ</p> <p>保育内容総論</p> <p>保育内容・健康</p> <p>保育内容・表現</p> <p>幼児と健康</p> <p>幼児と環境</p> <p>幼児と言葉</p> <p>保育教科演習</p> <p>教育実習指導Ⅱ(幼稚園)</p> <p>教育実習Ⅱ(幼稚園)</p> <p>保育実習指導Ⅱ(保育所)</p> <p>保育実習Ⅱ(保育所)</p> <p>保育実習指導Ⅲ(施設)</p> <p>保育実習Ⅲ(施設)</p>	<p>教育の方法・技術</p> <p>社会的養護Ⅱ</p> <p>子育て支援</p> <p>子ども家庭支援論</p> <p>子ども家庭支援の心理学</p> <p>在宅保育</p> <p>保育内容・人間関係</p> <p>保育内容・表現(総合)</p> <p>児童文化</p>
<p>③ 自己表現力・コミュニケーション能力及び課題解決能力の修得</p> <p>保育現場で起こる課題に対して、適切な判断を下すことができ、コミュニケーション能力を發揮して臨機応変に保育を展開することができる。さらに、自らの保育実践を省みて新たな課題を設定することができる。</p>	<p>保育実践演習Ⅰ</p>	<p>保育実践演習Ⅱ</p>	<p>保育探究演習(野外活動)</p> <p>保育探究演習(多文化保育)</p> <p>保育探究演習(特別支援保育)</p> <p>保育探究演習(保育の自然科学)</p> <p>保育探究演習(音楽アンサンブル)</p> <p>保育探究演習(造形アート)</p>	<p>保育・教職実践演習(幼稚園)</p>

※音楽Ⅴ(総合)、国語を除く